

カーボネルを完全に自由にするために……

①魔女のぼうしを手に入れる。

魔女の大釜を手に入れる

魔女から『音なしの魔法』を覚えてもらう。



2021年12月

12月になると17時には、すっかり真っ暗で日が短くなってきましたね。この一年も気が付けば今年もあと1ヶ月をきりました。少し早いですが、みなさんも素敵なお年をお迎えくださいね。今回ご紹介する本は、黒ネコが登場しますよ！

『黒ねこの王子カーボネル』バーバラ・スレイ作 山本まつよ訳 岩波少年文庫1985です。ご紹介する物語の会話で、ポンド、ペンスなどのお金の単位が出てきます。さて、どの国かわかりますか？……それは、イギリスです。あまり聞きなれない、シリングやファージングのお金の単位も出てきます。訳者あとがきにも触れられていますが、この物語自体、1955年にイギリスで発表されたものであり、シリングは1971年に、ファージングは1961年に廃止されています。昔からある本を読むと、今は使わなくなった言葉との出会いもあるので、面白いなぁと改めて思わせてくれます。

さて、このお話は、お裁縫で生計を立てているお母さんと2人暮らしのロージー（主人公の女の子）は、フェアファックス市でほうきを探していたところ、偶然出会ったある女の人から、ほうきとカーボネルという黒いネコを買うことになります。実は、この女の方は魔女で、ほうきは飛ぶことのできる魔法のほうきだったのです。また、ほうきの柄につかまっていると、カーボネルが話す言葉まで分かる優れものです。

このカーボネルは、ネコの王子であり、子ネコの頃に魔女に拐われたネコなのだということをロージーに伝えます。しかも、魔女にまじないをかけられており、買ってくれた人はご主人となり、よびよせの術を唱えられると、どんなに遠くてもご主人の所まで歩いて行かなくてはならないのです。

ある日、ロージーは、ロージーのお母さんが仕事をしているタソックス屋敷にいるジョン（ロージーと同じくらいの年の男の子）と仲良くなります。ロージーは、ジョンと知恵を出し合って、カーボネルがかかっている魔法を解くために、ぼうしと大釜、それから『音なしの魔法』の情報集めに奮闘します！魔法をかけた時と同じものを揃えなくてはならず、ほうきの他に、ぼうしと大釜がいるのです。しかも、魔女は『音なしの魔法』という、声に出さない魔法をカーボネルにかけており、魔女から『音なしの魔法』を探り出さなくてはならない。

さいごには、ちょっぴり悲しいこともあるけれど、気持ちよく読めると思えます。みなさんもぜひ、このファンタジーな世界を体感してください。2人の快活な性格、思いやりのある心、そして、どんな困難に直面しても決して諦めず果敢に取り組む姿には、勇気をもらえます！

